

# 巻頭言

## コミュニケーション



代表取締役専務  
竹村 寧

組織と情報の活用については以前にも述べたが、我々の会社組織は常にフレキシブルな対応力を持たなければならぬ。組織が人かというのも悩ましい問題ではあるが、あくまで効率的に仕事を行う為に人があつての組織であり、組織あつての人ではない。組織さえ良ければ会社の経営がうまくいくのであれば、良い会社の組織を導入すればうまくいく道理であるが、大概はそうはならない。それぞれが組

織の中でいかに気を配り、コミュニケーションを図っているか、所詮は組織に介入する人の問題だと思う。

それぞれが組織の中で役割を担い、また一人ひとりが頑張ることが大事なことは言うまでもないが、足し算の和をより大きくする為には必要な情報が必要となるに迅速に流れ、打てば響くような関係を築くことが大事である。社内外に於いてそうした関係を築くには、何かしてもらった時に「クイックレスポンス」ですぐに反応することだと思ふ。打たれたら打たれた側が響かなければならないということである。打たばすく響く太鼓のように、また電報を打たれたらすく響く、頭を打たれたらすく響くことだ。

打たれても打たれっぱなし、やっていただいてもやっていただきっぱなしでは、は、人と人、会社と社会の良いつながりを築くことは難しい。

特に大事だと思うことは、自分の都合のいかんにかかわらず「レスポンス」を早くすることである。自分に都合のよいことは誰でも早く反応するものだが、それは本当のつながりは築けないし都合の悪いことを先延ばしするの自分自身の余計な心の負担になってしまふ。嫌なことや面倒なことこそ先延ばしせずに行うだけ早くに「レスポンス」してしまうことが得策で、その「クイックレスポンス」に基づいて、また次の段階にいる人が的確な行動を起こす。

そうしたコミュニケーションの基本を確実に実行して、それらが連なっていくことにより、はじめて全体として強い組織ができあがっていくものだと思う。

### 表紙の写真

平成16年10月12日、閉幕した浜名湖花博の「花の交流館」、当社施工によるものです。



## 社外表彰

静岡県企画部政策推進総至表彰



平成15年度浜名湖ガーデンパーク整備事業主園路広場自然色舗装工事において、当社の施工管理が評価され、静岡県より土木本部の伊藤直樹さんが表彰を受けましたので、紹介させていただきます。

### 受賞者の言葉

土木本部 伊藤直樹

「花博に間に合うの?」と皆に言われながら、会場はまさに突貫工事でした。しずおか国際園芸博覧会建設工事協議会では、4月8日オープンにむけて、エリア会議、代表者会議、工程会議と会議の嵐でした。

私は、会場全体の舗装工事や海外出展エリアの各造園業者の工事について工程を取りまとめをすべて行っていた為、オープン前1ヶ月は、発注者までもが「何かあったら中村建設の伊藤さんに聞け」というくらいでした。当時、新入社員の飯塚君と大石君の協力があった、無事オープンする事が出来ました。また、この努力を評価され、今回表彰して戴いた事をうれしく思います。



## 第12回中村建設グループ技術発表会



本部鈴木正さんの「浜名湖内における仮締切工事について」が選ばれました。

また、発表会のあと、日本建設業経営協会中央技術研究所 岩淵常太郎主席研究員による「建設業における生産性の向上について」の講演が行われました。

今回で12回目となる『中村建設(株)グループ技術発表会』を、7月23日(金)に開催いたしました。この技術発表会は、日建経会員技術フォーラムへの応募選考も兼ねて毎年行っています。数多くの社内公募の中から厳選され、今回は、社長賞に土木

